

コロナにまつわるカタカナ言葉・・・正しく理解しよう

篠崎 辰夫

以前、河野太郎防衛相が「日本語で言えることをわざわざカタカナで言う必要があるのか」と問題提起したが、まさにその通りだと思う。政府の新型コロナウイルス対策はどこか空回りしている感が拭えないが、コロナにまつわる言葉ひとつとっても、国民に現状をわかりやすく伝えようという気遣いが伝わってこない。

どうして、カタカナ語やなじみの薄い専門用語をそのまま使うのか。担当者は、日本語で正確な意味を伝えにくく、適切な表現が難しいから、というが、危機感をあおらないように、カタカナ語や専門用語で意図的に分かりにくくしているように感じてならない。

そこで、新型コロナで大量に発生したカタカナ語や横文字を改めて調べてみた。知っているつもりでも意外と曖昧。正しく理解しよう。

感染拡大を防ぐためには、正しく情報を読み解くことが不可欠。言葉の意味を正確に理解し、一人ひとりが感染拡大防止に努めることが一刻も早いコロナウイルス収束につながる。

クラスター (cluster)

「同種のものや人の集まり。群れ。集団」。新型コロナでは、集団感染を意味している。クラスターなんて言わずに「集団感染」でいいと思うが。

ソーシャル・ディスタンス (social distance)

社会的距離と訳されるが、これじゃよくわからない。コロナでは、2m ほどの距離を空けるのが効果的とされる。「人との距離」「人との間隔」という表現でいいのではないか。

オーバーシュート (overshoot)

「度を越す」「行き過ぎる」という意味。これも「感染爆発」表現の方が伝わってくる。

ロックダウン

これも「都市封鎖」でいいと思う。緊急時、交通網を止めるなどして強制的な出入り制限を行うこと。日本では、法的に諸外国のような厳密な意味での都市封鎖はできない。

アラート (alert) 警報。東京都では、6月2日に「東京アラート」が発令された。

ウィズ (with) コロナ 新型コロナウイルスと共存しながら生活していくこと。

今回の新型コロナによる世界的流行は、何も今回だけとは限らない。今後もこのような未知のウィルスが流行する可能性が高い。よって、人類には、コロナと共存していくという覚悟が今後は求められるのではないか。ゆえに、ウィズ (with) コロナ、ということらしい。

テレワーク

自宅やサテライトオフィスなど、通常のオフィスから離れたところで働くこと。英語では「telework」と書き、「tele=離れた所」と「work=働く」の二つの言葉を組み合わせた造語。

アウトブレイク

限られた狭い範囲で疾病が急増すること。新型コロナの流行が武漢にとどまっていたときの状態や、特定の病院内での感染者急増などを指す。

COVID-19 （コビッド 1 9）

新型コロナウイルス感染症の正式名称。「Coronavirus Disease, 2019」（2019 年にコロナウイルスにより発生した病気）の意味。2020 年 2 月 11 日に世界保健機関（WHO）によって正式に決定された。

エンデミック

予測の範囲内において、一定の地域・一定の罹患率で感染症が広がること。

エピデミック

予測の範囲を超えて、一定の地域や集団において感染症が大量に発生すること。

パンデミック

世界的流行。予測の範囲を超えて、複数の地域や国にわたって感染症が大量発生する状態。

インフォデミック

「インフォメーション（情報）」と「エピデミック（流行）」を組み合わせた言葉。不安定な状況下で根拠のない情報やデマが拡散されること。

ゾーニング

感染者がいる病院内などにおいて、感染領域と非感染領域を区別すること。

エピカーブ

流行曲線。発症時刻と患者数のグラフ。

ベーシックインカム（BI）

最低限の所得を保証する制度。イギリスやアメリカ、スペインなどが、新型コロナウイルスにおける経済対策として導入を検討している。

コロナ禍

新型コロナウイルスが招いた危機的状況や不幸のこと。「コロナか」と読む。

ZOOM

パソコンやスマホを使って、セミナーやミーティングをオンラインで開催するために開発されたアプリ。新型コロナ感染拡大防止で多くの企業がセミナーやテレビ会議用に取り入れたことで有名になった。主催者からの招待 URL にアクセスすれば誰でも参加できる。無料版もある（個人で利用するケースであれば無料版で十分、但し 40 分の制限あり）。

3つの密

- ・換気が悪い空間（密閉空間）
- ・人が密集している（密集場所）
- ・近距離で会話や発声が行われる（密接場所）

(2020/08/20)